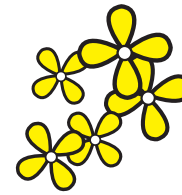


採取数 119個体  
 グリホサート耐性ナタネ(RR) 40個体  
 グルホシネート耐性ナタネ(LL) 40個体  
 隠れグリホサート耐性ナタネ 6個体

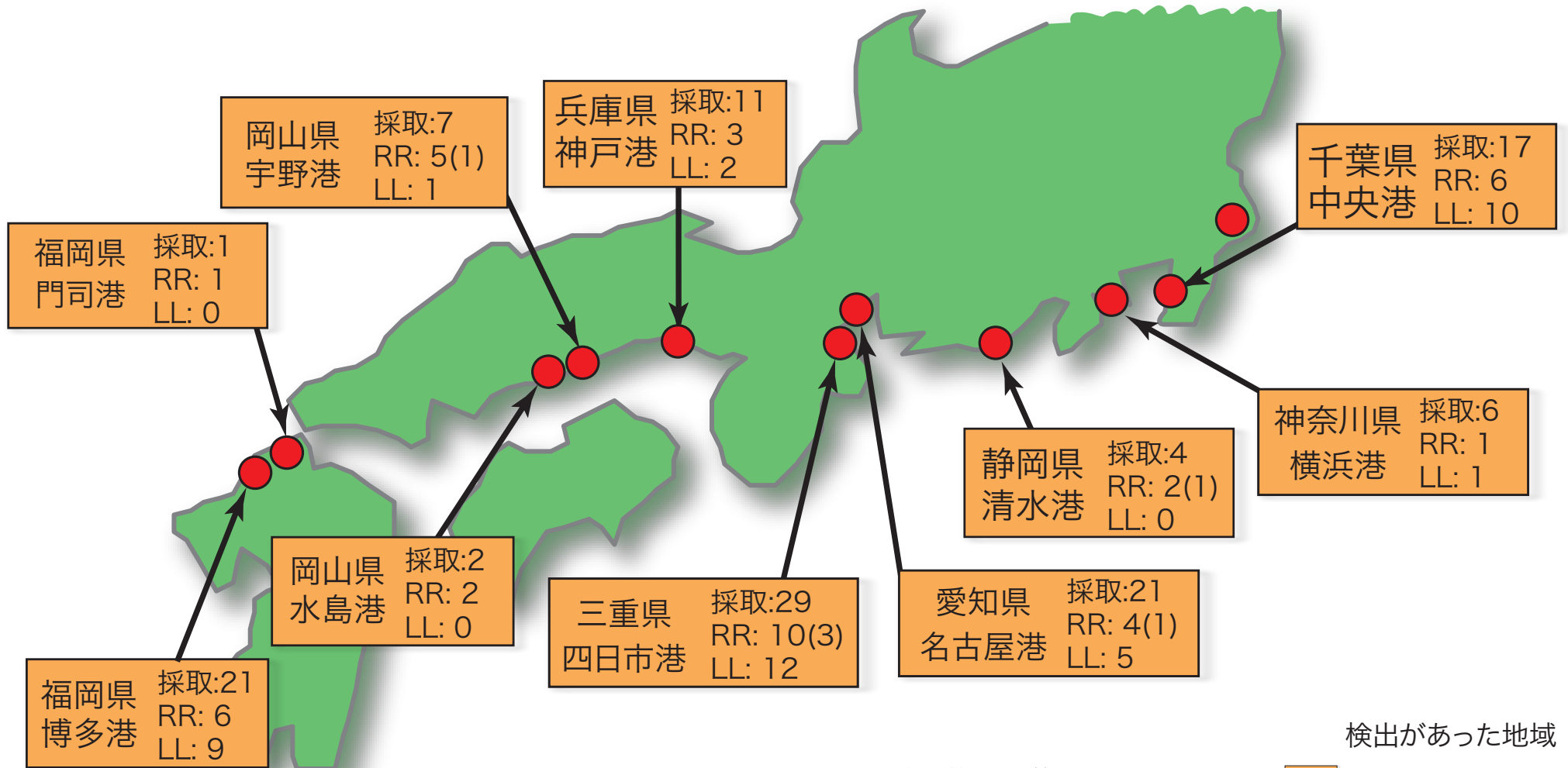
調査期間2011年4月11日～6月3日



# 遺伝子組換えナタネ 自生調査報告書2011

GMCALS

農民連食品分析センター 遺伝子組換えナタネ調査隊



検出があった地域

\*( )内の数字は、簡易試験法に陰性で、PCR法に陽性を示した個体。

## 概要

財務省貿易統計によると、2010年1月から12月までに輸入されたナタネ関連品目の累計数量は、2344千トンとなっており、昨年より27万トンほど増加しています。その内訳は、カナダ215万トン、オーストラリア19万トン、ポーランド36トン、中国1トンで、例年通り、カナダが92%程を占めます。

これらのナタネは、東京、横浜、千葉、鹿島、神戸、宇野、水島、大阪、名古屋、清水、四日市、博多といった12税関の管内から陸揚げされた記録が残っています。

農民連食品分析センターでは、こうした記録を元に、2011年4月11日から6月3日にかけて、横浜港、千葉港、神戸港、宇野港、水島港、名古屋港、清水港、四日市港、博多港の9港を、さらに今年は福岡門司港を対象に加え、合計10港の調査をおこないました。採取個体の判定は、イムノクロマト法による簡易試験、PCR法による確認試験を組み合わせ、結果としました。

今回の調査では、119個体を採取し、対象にした10港全てで遺伝子組換えナタネを検出しています。その合計数は86個体となりました。内訳は、グリホサート耐性が40個体、グルホシネート耐性が40個体でした。また今年も、簡易試験とPCR法による結果が一致しないナタネが6個体見つっています。これらはいずれもグリホサート耐性で、簡易試験紙には陰性、またはわずかに擬陽性を示す程度にもかかわらず、PCR法では組み換え遺伝子が検出されました。

各港湾の検出の傾向はおおむね例年通りでしたが、今回、門司港でグリホサート耐性の個体を初検出しました。博多港で小分けになったものが陸揚げされているのか、陸送されているかはわかりませんが、調査が必要と考えます。

また今回は博多港以南の道路沿いを精力的に調査しました。これまで国道を利用して運送がおこなわれていると考えていましたが、今回、輸送とはまったく縁がない極めて細い一般道で検出がありました。この場所は、高速道路が高架になっている地点であることから、博多港は高速道路を利用した運送がおこなわれていると考えられます。

今日、行政や第三者機関が、遺伝子組み換え作物の種子やそれを原材料にした製品の運搬経路情報の集約するまでには至っていませんが、今後、取り組みの実現を目指さなければいけないと考えさせられる結果となりました。

## 調査結果

### 千葉県中央港

4月11日、生活クラブ生協のみなさんと共同調査をおこないました。調査範囲は、搾油工場さんから港湾部までに続く運搬路で、私達は搾油工場周辺と港湾部を歩きました。

傾向としては例年と同様で、発芽したばかりの小さな個体が目立ちました。私たちが採取した個体数は17個体でした。簡易試験ではこのうち、6個体がグリホサート耐性、10個体がグルホシネート耐性となりました。

### 神奈川県横浜港

6月3日、磯子区周辺のある搾油工場周辺から、国道357号線、国道16号線、本牧ふ頭などを調査しました。南本牧ふ頭に繋がるランプ周辺で、1個体のグリホサート耐性、1個体がグルホシネート耐性を検出しています。

### 静岡県清水港

4月29日、清水港北側にある搾油工場周辺、南側にある飼料工場周辺を中心に調査をおこないました。今回は、これら地点より北側に向かっても調査範囲を広げたところ、これまで調査対象にしていなかった場所でも遺伝子組換え個体を3個体検出しました。より北側への調査の必要が考えられました。

### 愛知県名古屋港

5月1日、土砂降りの中、潮見埠頭と北浜町を中心に調査をおこないました。採取された21個体のうち、10個体が遺伝子組換えナタネとなっています。今年、潮見埠頭周辺では、コンベア下の除草剤がまかれたと考えられる場所に、ナタネだけが残っている印象的な場所が確認されました。北浜町では、昨年同様の場所で、組み換えナタネが見つっています。北浜町は検出割合が増えている印象があります。

### 三重県四日市港

5月2日、例年どおり、四日市港から運搬路に当たる国道23号線および搾油会社さんまでを調査しました。相変わらず、自生数の多い地域であることを再認識しました。今年、29個体を採取し、このうち25個体が遺伝子組換えナタネという高い検出率を記録しました。世代交代が進み、遺伝的

変化が起きているのか、簡易試験とPCR法が一致しない個体も目立っています。

### 兵庫県神戸港

5月3日、深江浜および住吉浜周辺の調査をおこないました。傾向は例年同様の感触です。今年は、うっかり道を間違え迷い込んでしまった摩耶E埠頭で大量の遺伝子組換え個体を発見しました。この場所で陸揚げがされていたことを示すもので、今後、輸送先などの調査が必要と考えられます。

### 岡山県水島港および宇野港

5月5日に水島港および宇野港を調査しました。水島港は、検出のない港でしたが、昨年に続き、検出が認められました。宇野港の調査では、例年同様、搾油会社周辺で検出が認められたほか、新港側でも2個体、工場から8km程離れた場所でも1個体の検出が認められました。

### 福岡県博多港

5月4日、箱崎埠頭周辺、香椎埠頭周辺、国道3号線沿い、高速道路下の一般道を調査しました。箱崎埠頭周辺は例年同様の傾向でした。今回、やや離れた香椎埠頭での検出が認められています。毎年、箱崎埠頭から国道3号線沿いに15km程南下した地点で遺伝子組換えナタネを検出しているため、その原因を探る調査をおこないました。その結果、およそ運搬とは関係のない細い一般道での検出が認められました。この場所は高速道路の高架下であることから、高速道路による輸送が存在することがわかってきました。

### 福岡県門司港

5月4日、門司港の調査にはじめて入りました。今回は、主に海沿いを中心に調査をおこなったところ、関門橋まで4km程度の場所にある穀物倉庫が建ち並んでいる地点で、遺伝子組換えナタネを1個体確認しました。この辺の陸揚げや輸送ルートについてはよくわかっておらず、今後の解析が必要といえます。

